

施工説明書

増設モニター 電源コード式

品番 VL-V632K



接続するテレビドアホンの施工説明書とあわせて、よくお読みください。

施工をされる方へ

- 施工説明書をよくお読みのうえ、正しく安全に施工してください。特に「安全上のご注意」は、施工前に必ずお読みください。施工説明書に記載されていない方法や、指定の部品を使用しない方法で施工されたことにより事故や損害が生じたときには、当社では責任を負いません。また、その施工が原因で故障が生じた場合は、製品保証の対象外となります。
- 電源配線工事には、電気工事士の資格が必要です。
- 電源プラグキャップおよび包装材料は、商品を取り出したあと適切に処理をしてください。
- 施工終了後は、必ず本書をお客様にお渡しください。
- 本書では、増設モニターを「本機」、テレビドアホンのモニター親機や玄関子機はそれぞれ「ドアホン親機」「ドアホン」と表記しています。

安全上のご注意

必ずお守りください

人への危害、財産の損害を防止するため、必ずお守りいただくことを説明しています。

- 誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を区分して、説明しています。
- お守りいただく内容を次の図記号で説明しています。

警告 「死亡や重傷を負うおそれがある内容」です。

注意 「軽傷を負うことや、財産の損害が発生するおそれがある内容」です。

してはいけない内容です。

実行しなければならない内容です。

付属品の確認

ご確認のうえ、不備な点がございましたら、お買い上げの販売店へお申し付けください。

□ 壁掛け金具(1個)

□ 壁掛け用木ねじ(2個)
(4 mm × 16 mm)□ 壁掛け用小ねじ(2個)
(4 mm × 25 mm)

● 本機の背面にあります。

● 壁の材質によって付属のねじが使えない場合は、材質に合わせて市販のアンカーなどをご使用ください。

設置上のお願い

設置場所について

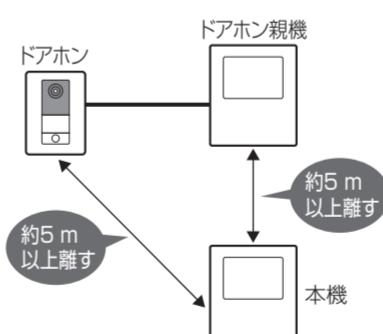
こんなところには設置しない

(故障や動作障害などの原因になります)

- 振動、衝撃のあるところ
- 反響の多いところ
- 硫化水素、アンモニア、硫黄、ほこり、有毒ガスなどの発生するところ
- 火気・熱器具・冷暖房機の近くや直射日光の当たるところ(誤動作・変形・故障の原因)
- 温度変化が激しいところ(結露による誤動作の原因)
- テレビ、ラジオ、パソコンなどのOA機器、エアコンなどの近く

その他

- 本体の上下左右に20 cm以上の空間をとってください。(誤動作や通話の途切れ防止)
- 壁を深くくぼませたスペースへの設置はできるだけ避けてください。(誤動作や通話の途切れ防止)
- 本体を埋め込まないでください。
- 本機は右図のように、ドアホンやドアホン親機からそれぞれ約5 m以上離して設置してください。(ハウリングなどの通話障害や通話の途切れ防止)
- 強電界地域や電波を発する無線局周辺では、映像や音声にノイズなどが入ることがあります。



工事について

- 電源について: 必ず遮断装置を介した次のいずれかの方法で接続する。
(1) 電源コンセントの近くに設置し、遮断装置(電源プラグ)に容易に手が届くこと。
(2) 3 mm以上の接点距離を有する分電盤のブレーカーに接続する。
ブレーカーは保護アース導体を除く主電源のすべての極が遮断できるものを使用すること。
- 既存または新設のドアホン配線などを接続する場合は、接続工事の前に、必ず大地アースと配線との絶縁抵抗、配線2線間の絶縁抵抗、および配線の線路抵抗値(直流ループ抵抗)を測定のうえ、下記の抵抗値と照合し、異常のないことを確認してから接続工事を行う。

絶縁抵抗値 DC500 V にて 1 MΩ 以上

線路抵抗値 直流抵抗計にてループ抵抗 10 Ω 以内(配線距離 100 m以内)

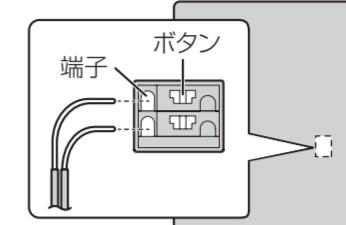
- 本機は電気設備技術基準による施工を行う。
・ 使用する埋込みボックスに、堅牢な隔壁(電源線とその他の信号配線材の間)を設ける。
・ 金属ボックスを使用する場合はD種接地を行う。
・ 配線材はAC 600 V以上の絶縁電線を使用する。
- ノイズ障害が考えられる場合は、金属配管の中に接続線を通して工事を行う。
(金属管は必ず大地アースをすること)

設置上のお願い(つづき)

工事について(つづき)

- AC100 V以上の電力線(電灯線)とは1 m以上離して配線工事するか、別々の金属管による配管工事を行う。(映像の乱れや通話ノイズなどの防止)
- 本機の信号線接続端子は、速結端子になっているため以下の方法での結線を行う。
(接続できる線種などについては「 線種と配線距離について」)

<本機背面>



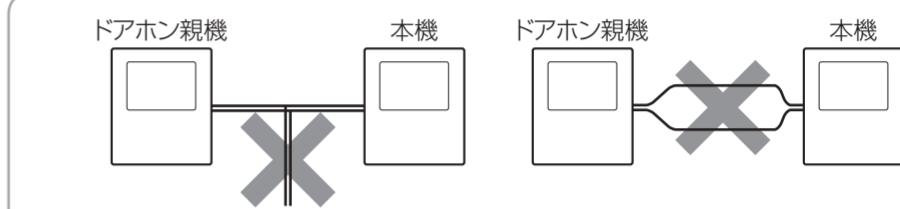
配線材を挿入する場合

- ・配線材の被ふくを9 mmむく。
- ・ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を確実に端子に挿入する。

配線材を抜く場合

- ・ドライバーの先などでボタンを押しながら配線材を引き抜く。

- ドアホン親機と本機間に不要な配線があるときは、取り除くか新たに配線してください。
また、下記のように配線材を分歧したり、極端にばらしたりしないでください。
正常に動作しないことがあります。

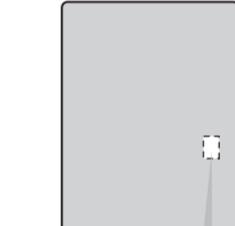


- 誤配線、ショートなどがないことを確認後、ドアホン親機と本機の電源を入れる。

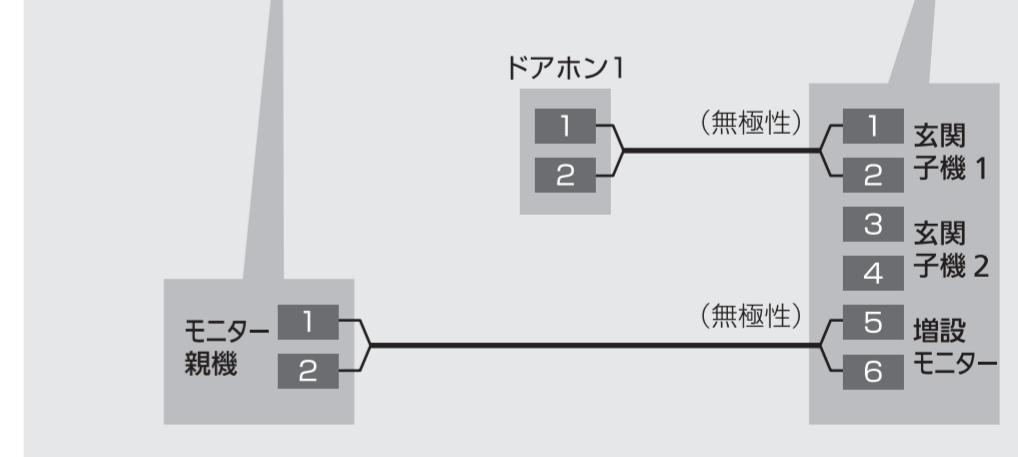
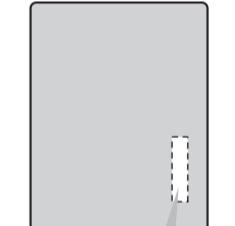
配線系統図

よくご確認のうえ、正しく配線してください。

本機背面



ドアホン親機背面



線種と配線距離について

(下表の記載以外で使用すると、動作不良の原因になります)

配線区間	線種	配線距離(総延長)
ドアホン～ドアホン親機～本機	インターホン用平行2線式ケーブル 単芯線(mm) : $\phi 0.65 \sim \phi 0.9$	100 m以内



